

読売新聞ホームガイド「国産材使おう！」

読売新聞の記事によると、

「二酸化炭素の排出量を減らすことなどを定めた京都議定書が先月発効し、国産木材を使った身近な製品があらためて注目されている。国産木材を使うことが国内の林業を支え、森林を育て、二酸化炭素の吸収につながるからだ。」として、全国の様々な取り組み事例を紹介しました。

そのなかで、木楽舎のことは、

「国産木材製品の製造、販売を手がける「木楽舎（きらくしゃ）つみ木研究所」（山梨県田富町、055・273・4472）は、山梨県産のヒノキ間伐材を使った積み木セットを子ども向けに販売している。1辺約3センチの立方体や台形を組み合わせ、200個入り1万2600円（送料別）から。7年前から製造しているが、京都議定書が発効したこの時期をPRの好機ととらえ、新たに作成したパンフレットで、「つみ木で森をつくりましょう」と訴えている。」と全国紹介していただきました。